

自己評価表

(愛媛県立西条高等学校定時制)

学校番号(9)

教育方針	人格の完成を目指し、国家及び社会の有為な形成者として、文化の創造と発展に寄与する人間を育成する。	重点目標	自分を愛し、他者を愛し、一步踏み出せる人材の育成
------	--	------	--------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 学習成績年間平均点80点以上が10%以上 漢字テスト年間平均点90点以上 <ul style="list-style-type: none"> A: 60%以上 B: 50%以上60%未満 C: 40%以上50%未満 D: 30%以上40%未満 E: 30%未満 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学習年間平均点80点以上10%以上は6人で、17.6% ・漢字テスト年間平均点90点以上は44.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も同じ目標で取り組ませたい。 ・漢字テストの欠席者は0点であるので、平均点を上げるには当日登校させることが重要である。達成感を味合わせ、漢字テストがあるから登校するという意識付けを行いたい。
	資格取得の奨励	<ul style="list-style-type: none"> ・在学中の各種資格3級以上の取得者 <ul style="list-style-type: none"> A: 70%以上 B: 60%以上70%未満 C: 50%以上60%未満 D: 40%以上50%未満 E: 40%未満 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・3級以上の資格取得者は1年次0%、2年次33.3%、3年次100%、4年次76.9%で、全体は54.2%であった。目標を達成することはできなかったが、全商ビジネス検定1級、実用英語検定準1級、TOEIC 895点、漢字検定2級、数学検定2級など、上級資格取得者を複数出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年次に4級や5級から始めることで高学年になってからの上級資格取得につながる。資格取得を奨励する取組がもっと多くの資格を取得したいという意欲を生み、校内では実施しない検定に自ら挑戦する生徒も現れている。今年度は英語検定において、1、2年生の受検者がいなかったため、次年度は1、2年生に4・5級から取得するよう呼び掛けたい。
生徒指導	出席率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年間出席率 <ul style="list-style-type: none"> A: 95%以上 B: 90%以上95%未満 C: 85%以上90%未満 D: 80%以上85%未満 E: 80%未満 ・年間の皆勤者と精勤者の合計 <ul style="list-style-type: none"> A: 15人以上 B: 10人~14人 C: 7人~9人 D: 4人~6人 E: 3人以下 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間出席率は91.5% (1月末現在) ・皆勤者8人、精勤者7人、合計15人 (1月末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も出席停止が多く、毎日学校に通わなくてはならないという意識付けが難しかった。また、長期休業明けの出席率の低下が課題である。言葉掛けによる意識改革と併せて、学校行事、生徒会行事等の出席率が非常に高いことから、各種行事の一層の充実を図り、学校へ来たいと思わせる環境作りを進めたい。
	生徒理解の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、一人の生徒に対して一日に一度以上言葉掛けをして生徒理解に努め、自己肯定感高揚の一助とする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が1日に数度職員室にやってくる。毎日の登校指導時にも言葉掛けは十分行っている。また、面接週間を毎学期初めに設け、生徒の日々の様子や悩みなどを聞くようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は年5回の成績会議時に生徒全員の情報交換を行うだけでなく、校内支援会議を3回実施し、生徒の共通理解を図った。次年度も今年度同様に生徒理解に努め、家庭との連携を一層図りたい。
	交通安全の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・始業30分前より校門前及びその周辺で、交通指導を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、2~3人の教員が校門前で登校指導を行っている。また、ドライビングスクールで講習会をしていただき、実践的な交通指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の登校手段は多様である。次年度も日々の登校指導はもちろん、車体検査の必要性や交通安全講習の意義を理解させ、交通規則やマナーを守る指導を実践する。
進路指導	個に応じた進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークとの早期からの連携 ・個々の進学希望に応じた個別指導の充実 ・卒業時希望進路達成率100% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1月末現在、希望進路達成率86.7%だが、卒業時までには100%となる見込みである。面接練習は担任を中心に全ての教員が関わって実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度同様、進路指導を担当だけに任せるのではなく、面接指導や小論文指導については全ての教員が関わり、進路先の決定においても情報を共有し、チームとして指導に当たる体制を整えたい。
	進路に対する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスを年間2回以上行い、生徒の進路目標を明確にさせる。 ・<u>在学中就労体験率</u> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 B: 70%以上80%未満 C: 60%以上70%未満 D: 50%以上60%未満 E: 50%未満 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はキャリア教育を昨年度の2回から4回に増やして実施した。さらに、労働セミナーや主権者・消費者教育なども実施し、将来設計の大切さを指導している。 ・卒業時までの就労体験率 73.3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、キャリア教育の充実を図るため、内容を見直し、講演だけでなく、マナー講座や職業体験講座なども取り入れたい。 ・特に就職希望者には、長期休業中の短期アルバイトだけでも経験させ、働くことの意義を理解させることで主体的に進路を選択する一助とした。
特別活動	学校行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・主な学校行事(運動会、県総体、球技大会等)の参加率 <ul style="list-style-type: none"> A: 95%以上 B: 90%以上95%未満 C: 85%以上90%未満 D: 80%以上85%未満 E: 80%未満 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・参加率は1学期球技大会91.2%、県総体80.0%、ドライビングスクール講習会91.2%、運動会97.1%、修学旅行97.4%、2学期球技大会94.1%、平均92.9%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事への参加率は令和元年度から3年間ずっと90%を切っていたが、今年度は参加率が上昇した。生徒会による学校行事満足度アンケートの結果も非常に良好であった。次年度も学校行事の準備期間からの意識付け・振り返りを十分行いたい。
	生徒会活動等の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>生徒会行事・生徒生活体験発表大会の参加率</u> <ul style="list-style-type: none"> A: 95%以上 B: 90%以上95%未満 C: 85%以上90%未満 D: 80%以上85%未満 E: 80%未満 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生歓迎会97.3%、生徒総会97.3%、生徒会役員選挙96.9%、生徒集会97.1%、送別会90.6%、平均95.7%であった。 ・生徒生活体験発表は作文提出率100%、各ホームルームにおいて選考会を実施後、代表者による校内大会を実施し、その参加率が94.4%であった。本校代表生徒が県大会で最優秀となり、全国大会に出場した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員選挙で昨年度2名が生徒会長に立候補したが、今年度は3名が立候補し、他の役員もほとんどが立候補者で埋まった。新入生歓迎会や生徒集会は生徒会からの申し出で今年度初めて実施した行事である。次年度も生徒が中心となって企画・運営する場を増やし、意欲的に取り組ませたい。 ・生徒生活体験発表の作文を書き、他者の発表を聞くことは自己理解・他己理解の絶好の機会であることを理解させ、次年度も意欲的に取り組ませたい。次年度は作文週間に作文を書く時間を確保する予定である。
	部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>部活動加入率</u> <ul style="list-style-type: none"> A: 40%以上 B: 30%以上40%未満 C: 20%以上30%未満 D: 10%以上20%未満 E: 10%未満 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率は1年生63.6%、2年生33.3%、3年生71.4%、4年生53.8%、全体は56.8%である。令和元年度、2年度、3年度の加入率が20%台であったのに比べ、大幅に上昇した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の1年生は入部者が少なかったが、今年度は多く、熱心に活動している。今年度、4月に部活動紹介を実施したこともよい影響を与えた。次年度も実施して加入率を上げることで、学校への帰属意識を高めたい。
業務改善	勤務環境の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事内容の精選と効率化を図り、時間外労働時間の短縮を図る。 ・年次有給休暇が取得しやすい環境づくりに努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ定時退勤できており、時間外労働時間は短い。年次有給休暇も取得できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が少人数のため、どうしても業務に偏りが出てしまうが、校務分掌の適正なバランスを考え、教職員の意見を聞きながら、業務分担の見直しを図る。